

こんにゃくの優良品種「あかぎおおだま」の選定							
<p>[要約] 中山間地域の<u>こんにゃく</u>生産の安定化と増収を図るため、「<u>あかぎおおだま</u>」を<u>優良品種</u>として選定した。「あかぎおおだま」は1個重が重く<u>多収</u>であるとともに繁殖に用いる<u>生子</u>の生産量が多い。</p>							
八女分場・中山間地作物研究室					連絡先	0943-42-0292	
部会名	園芸	専門	育種	対象	工芸作物類	分類	普及

[背景・ねらい]

近年、中山間地域の地域特産物として、手作りこんにゃくが注目され、かなりの量の製造がなされているが、原料の大部分は県外産に頼っているのが現状である。また、栽培されている在来種は収量が少なく、繁殖に用いる生子の生産量が少ない。

そのため、本県に適する優良なこんにゃく品種を選定し、中山間地農業の振興を図る。

[成果の内容・特徴]

「あかぎおおだま」は次のような特性を有する。

- ① 1個当たりいも重が重く、収量は「はるなくろ」と同等であるが、「在来種」より多収である（表1）。
- ② 生子は棒状で1個重が重く、「はるなくろ」、「在来種」より生産量が多く、増殖及び再生産に有利である（表2）。
- ③ 葉色は淡緑色で淡く、葉柄長及び葉身長は「在来種」と同等で「はるなくろ」より短く、成熟期は「在来種」より1週間遅い（表3）。
- ④ こんにゃく栽培で問題となる根腐病耐病性は、「在来種」より強い（表3）。

[成果の活用面・留意点]

- ① 「あかぎおおだま」は在来種より根腐病に強いが、無防除では減収するので薬剤による防除対策を行う必要がある。

[具体的データ]

表1 収量及び欠株率 (平成4～5年)

品種系統名	年次	上いも		くずいも		欠株率 %	根腐病
		重 kg/a	数 個/a	重 kg/a	数 個/a		
あかぎおおだま	H 4	63.8	393	16.1	304	16	やや多
	H 5	130.1	375	2.0	33	2	少
はるなくろ	H 4	76.9	428	17.0	346	7	中
	H 5	121.3	417	0	0	0	少
群馬在来	H 4	31.8	220	30.3	584	4	多
	H 5	56.7	350	2.9	50	4	中

- 注) ①種いもは2年生を用い、栽植密度は4年833株/a、5年417株/a。
 ②根腐病対策として、平成5年度はエクロメゾール粉剤を植付時に20kg/10a植溝に土壌混和处理した。平成4年度は無処理。
 ③上いもは100g以上とした。
 ④欠株率は根腐れ病によるものを含む。

表2 生子生産量 (平成5年)

品種名	重量	数	1個重	形状
	kg/10a	個/10a	g	
あかぎおおだま	379	19330	20	棒状
はるなくろ	94	10500	9	球状
群馬在来	36	5750	6	球状

表3 生育及び特性

品種名	葉色	葉柄長	葉身長	成熟期
		cm	cm	月日
あかぎおおだま	淡緑	42	45	10.14
はるなくろ	濃緑	47	47	10.14
群馬在来	緑	42	46	10.8

注) ①平成4、5年の平均値で示した。

[その他]

研究課題名：コンニャクの品種選定

予算区分：経常

研究期間：平成5年度(平成2～5年)

研究担当者：大賀康之、執行明久、中村晋一郎

発表論文等：平成2～5年度 福岡県農業総合試験場八女分場 試験成績書